

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>”「こころ」私達は、皆様の心に寄り添えるよう、誠心誠意尽くします。”これを理念として掲げ、その人らしさの根源である「こころ」を尊重し寄り添った支援をしていくように心掛けている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を各フロアに掲示し、また全体朝礼において唱和するなど絶えず意識して職務を行うようにはかっている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営規定及び重要事項説明書に事業の目的・方針を記載し入居契約時にご家族に説明している。また理念を記載したクレール便りを家族や地域に配布、運営推進会議にて説明をするなど理念の浸透をはかっている。</p>	<p>○ 地域の方々への浸透は行事への参加の際などにより浸透されるように取り組みたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的な挨拶を重視し実践している。また朝礼時に定期的に喚起を行なっている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>散歩や買物などの外出時に交流。また自治会の公園清掃に定期的に参加するなど、地域活動の情報を得て可能な限り参加を促進している。その中で馴染みの関係、対話交流の構築に努めている。</p>	<p>○ これからも様々な地域行事に参加していきたい。また併設のデイサービスにてボランティアによる健康体操を実施しているが、他のイベントも開催するなどして地域の方々にも参加いただけるような企画を検討している。</p>

グループホームクレール(ユニット2)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や地域のグループホーム連絡会にて情報収集や話し合いを行っている。</p>	○	<p>前述の行事開催を検討していく。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全体会議やグループホーム会議、ユニット会議において改善すべき項目について話し合い少しずつでも実践をはかっている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、地域代表、利用者家族などの参加者に報告、意見を求めサービスに取り入れている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当課との連絡を取り合い、また連絡会を利用して報告・相談を行うなど取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修への参加を行い、内容を報告書や会議の場での報告を行い情報を広めるようにはかっている。また以前入居者の方で権利擁護事業を受けている方がおられた。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>関連した研修への参加。また身体拘束検討委員会を設置し、その中で拘束のみならず虐待について知識や意識をもてるように努めている。</p>		

グループホームクレール(ユニット2)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入退去相談の時点で詳しく情報収集や話し合いをするように努め、実際の書類手続きの際も説明を行ったうえで手続きを行うようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>サービス提供の中でマンツーマンで接する事の出来る機会を設けている。また言葉に出ない訴えも見逃さないように支援に努めており、カンファレンスなどで反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一回、ご家族への報告書、預かり金台帳をお渡ししている。また面会時に近況報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談受付窓口は管理者と定めているが、日頃の面会時にも遠慮なくご意見、苦情など言っていただける雰囲気作りに努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は全体会議やグループホーム会議、ユニット会議に参加し、また個別で意見等を聞き取る機会を設け、その都度法人本部に報告を行い反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者・家族の相談等に応じて柔軟な対応がはかれるように調整を行っている。行事予定(計画書)を作成して必要な際に人員が薄くならないように調整している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事前の説明や、混乱不安とならないように声掛け支援に配慮している。数例過去にあったが目立ったダメージは見られなかった。</p>	

グループホームクレール(ユニット2)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営規定にて研修機会を定めている。外部研修には業務の関係で満遍なく受ける事は難しいが、シフト調整などで柔軟な対応をはかっている。</p>	<p>○</p> <p>受講した研修は報告書で他の職員に報告。今後、外部の研修にも積極的に参加できるように調整していく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域グループホーム連絡会をおよそ2ヶ月に1度の間隔で開催、参加しており、その中でネットワークが構築されている。不定期ながら事例検討や勉強会も行われている。</p>	<p>○</p> <p>今後はグループホームだけではなく、小規模多機能ホームなど地域密着型サービス連絡会として発展していく予定である。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>各種会議やミーティングにて職員の意見や話を聞き取る機会を設けまた個別に変化など早めに察知するように努め、負担の緩和に繋げている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務査定とまではいかないが、報酬に反映されるような仕組みがある。また報酬だけでなく働きやすい職場環境作りを日頃から検討している。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けてから、必要に応じて複数回面談を行い各種記録に残し支援に活かせるようにしている。ADLだけではなく趣味やお気持ちなど多様に聞くこととしており、家族に言えない部分なども抽出するように配慮している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けてから、必要に応じて複数回面談を行い各種記録に残し支援に活かせるようにしている。利用者情報だけでなく今までの介護に対しての苦労やお気持ちなど多様に聞くこととしている。</p>	

グループホームクレール(ユニット2)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けてから、必要に応じて複数回面談を行い各種記録に残し必要なことの見極めに努めている。その中で他のサービス利用を含めた意見も出させて頂いている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その方の気持ちや置かれている環境に応じてリロケーションダメージを軽減する方法を検討している。家族共倒れの可能性が高く緊急的に入居となるケースも多々あるが入居後の経過に注意し対応して早めに信頼関係を得られるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	好きだった事、得意な事、また出来る事を把握して日々の生活の中に盛り込み、その方が活躍できる、必要とされていると感じられる場の構築に努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会しやすい環境作り、報告連絡をこまめに行う、ケアプランへの意見の反映、これらを行いともに支えている関係作りをはかっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	初期の相談からの面談などにおける情報収集、記録で理解に役立てている。又、入居後の面談時の様子なども必要に応じて記録しカンファレンスで検討しより良い関係が継続されるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	収集した情報や本人の希望を基にして、最大限対応している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングでの座席配置や好みの場所の確保など調整し、互いに楽しく生活されるように配慮している。カンファレンスでその都度検討したり対応をはかっている。		

グループホームクレール(ユニット2)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	電話連絡や面会(かしまったものではなく、近所の公園やスーパーなどで出会う)など必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期の相談からの面談などにおける個別の情報収集、記録でその人らしさの把握に努めている。また利用してからの経過も記録やミーティングにより職員が共有できるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の相談からの面談などにおける個別の情報収集、記録でその人らしさの把握に努めている。また利用してからの経過も記録やミーティングにより職員が共有できるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	初期の相談からの面談などにおける個別の情報収集、記録でその人らしさの把握に努めている。また利用してからの経過も記録やミーティングにより職員が共有できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には当該職員だけでなく、家族や関連機関の職員も含めてサービス担当者会議を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なもの以外に、必要に応じてサービス担当者会議を開催し反映させている。		

グループホームクレール(ユニット2)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員が日々記録する介護経過と、計画作成担当者の支援経過を利用者ごとに記録して支援に役立てている。職員連絡ノートを活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ユニット間の異動を行った事がある。家族が高齢・遠方で支援困難な場合の遠方の通院対応や趣味活動参加を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者・家族の相談等に応じて柔軟な対応がはかれるように調整を行っている。教育機関が推進する「たかいっし子を守るお家」に協力している。	○	お買物など外出が好きな方がスーパーへ、手芸など習い事が好きな方が教室へ、子供とのふれあいが好きな方が幼稚園などへ好きなときに一人で外出できるような環境作りが最大の目標です。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前に利用されていた居宅介護支援事業所やサービス事業所とは入居後も情報のやり取りや相談を行いその人への支援向上となるように活用している。また病院の相談室にも相談しその方に合った形のサービス利用を検討している。社会福祉協議会主催のケアマネ連絡会に参加し情報交換している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター主催の研修会などに参加し多面的な支援が行える環境作りに配慮をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望にそって、掛り付け医を決めていただいている。変調時など提携医療機関でなくとも報告相談を行って安心して医療を受けられるようはかっている。		

グループホームクレール(ユニット2)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要に応じて精神科医や心療内科医に相談や受診している。</p>	<p>○</p>	<p>必要時だけでなく気軽に相談できる専門医との協力関係を築きたいと思います。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>契約している訪問看護ステーション及び提携の往診医に利用者の医療のみならず日常の情報を報告し、連携をはかっている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院先に訪問し、担当医師やSW、家族との話し合いを行い退院に対応する体制をとっている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合の方針、看取りの指針については家族に説明同意を得ている。また主治医、家族、関連機関などの情報共有をはかっている。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>事業所として何処まで出来るのか、他のサービス・医療機関との連携で支援出来ないかなど検討を重ね対応する事としている。</p>		
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>介護サマリー作成及び先の担当者との話し合いの場を設け情報交換を有効に出来るようにしている。</p>		

グループホームクレール(ユニット2)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念や運営の方針に掲げ徹底している。また個人情報取扱にあたっては全職員に法人規定の誓約書にサインをもらっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	理念や運営方針に掲げ徹底している。サービス提供マニュアルに整備し、介護する側の都合を押し付けず、本人の状態に合わせた接遇を心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営方針に掲げ徹底している。サービス提供マニュアルに整備し、介護する側の都合ではなく自己のペースに合わせた支援を心掛けている。入浴時間や食事時間に一応の規定はあるが幅を持たせ柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者・家族の意向にそって対応している。入居前からの馴染みの理容店へは家族や店のご協力を仰いで対応頂いているケースもある。化粧品は個人の希望(ブランドなど)を聞き購入している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外注の給食会社が調理を行い、入居者が調理をされる事はないが、行事でのお菓子作りなど参加される機会を確保し対応している。食べたい物など希望を聞き取り給食会議にて反映されるようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の状態に合わせ対応をはかっている。	

グループホームクレール(ユニット2)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	表情や仕草も含め観察記録して、声掛け・誘導に反映している。排泄チェックリストを使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の心身の状態に合わせた対応を心掛けている。柚子湯など季節に合わせた入浴を提供している。就寝前の入浴習慣のある方が入居され始め日中の入浴に抵抗感が見られたが、声掛けや入浴方法を話し合いで了承を受け提供している。	○	希望が増えた場合、夜勤帯での入浴対応(勤務体制変更)も検討していく必要がある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の活動場面作りで生活リズムの安定化に配慮しつつ、個人に合わせて対応をはかっている。個人ごとの睡眠サイクルの把握、シーツ交換の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活のあらゆる場面で声掛けを行い、強制とならないように配慮しながら活動場面への参加支援を行い、身体機能の維持向上となるように心掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお気持ちに配慮して、ご家族に同意を得た上で小口は自己管理いただくケースがある。買物などでは内容を確認、保管場所は全職員周知し混乱のないように配慮している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそい、短時間でも毎日外出できるように調整している。不定期であるが車を使用しての遠出を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足行事を開催している。個別やグループでの買物や外出など対応しており、一部ご家族に協力頂き外出頂いている。		

グループホームクレール(ユニット2)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の心身の状況に応じて対応をはかっている。年賀状など本人の希望に応じ出す支援をはかっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は積極的に受け入れ、本来の面会時間外でも極力対応できるようにはかっている。希望にそって居室やリビングで面会頂き、お茶やコーヒーなどお出ししている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束取扱要領に盛り込み記載している。身体拘束検討委員会を設置し身体拘束ゼロに取り組んでいる。	○	研修・勉強会を通じて職員の意識をもっと高めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階段に繋がるドアはやむを得ず電子ロックしているが、利用者家族に説明を行い理解を得ている。利用者の要望には外出など気分転換をきめ細かくはかっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊行為の見られる方には強制的にやめさせるのではなく、さりげなく見守り声掛けを行い安全確保に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	持ち込み品は個別にリストを作って把握している。危険に思われるものは本人の状態や家族との相談を通して配置換えを行う事としている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故予防・対応マニュアルを整備し取り組みを行っている。消防訓練を実施している。	○	専門的な研修や講習に多くの職員が参加できる機会を設け、より意識や知識を高めていきたい。

グループホームクレール(ユニット2)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故予防・対応マニュアル、急変時のフローチャートを整備し取り組みを行っている。全職員の定期的な訓練までは至っていない。	○	専門的な研修や講習に多くの職員が参加できる機会を設け、より意識や知識を高めていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事故予防・対応マニュアルを整備し取り組みを行っている。消防避難訓練を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族への報・連・相をこまめに行い、早期に予防や対応できるようにはかっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック表を活用し、主治医や訪問看護との連携をはかっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとに薬情報をファイルし職員が把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物(乳製品や繊維質)の工夫や、身体機能維持向上に取り組んでいる。排泄チェックリストを使用し医療機関と連携をはかっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがいや歯磨きなどの口腔ケアを利用者に応じて支援している。義歯は洗浄剤にて消毒している。訪問歯科と連携し口腔の状態を把握し支援できるように取り組んでいる。		

グループホームクレール(ユニット2)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録し、栄養バランスは栄養士が管理している。水分摂取量も極端な変動が見られる場合経過に記録し支援に反映している。個別に刻み食やミキサー食提供を実施している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時の診療情報提供書にて感染症の有無を調べている。感染症委員会を設置し、感染予防マニュアルの整備とともに予防対応に取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	原則調理に関しては委託の給食会社にて管理し情報を受けている。事業所としては感染症予防マニュアルを整備し手洗いや衛生管理について徹底をはかっている。布巾やおしぼりなどは消毒を行い清潔を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに植木を配置している。控えめなネームプレート表示で施設的にやり過ぎないようにしている。植え込みに照明を設置し夜間でも明るくしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時節に応じた手作りの装飾や花で飾っている。各設備は木目調に統一して家庭的な雰囲気になっている。レースやカーテンで遮光調整しTVや音楽も音量に配慮して使用している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースの机と椅子は配置換えしやすくしており、利用者の要望にそって色々な空間を作り出せるようにしている。		

グループホームクレール(ユニット2)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家庭で使われていた馴染みの物を持ち込まれるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全室に吸排気装置を設置。毎日換気を行っている。適宜消臭剤や芳香剤を用いている。冷暖房は各室個別にチェックしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室と洗面台は滑り止め加工。手摺りを高さに配慮して各部に設置している。トイレには可動式バーを設置。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	サービス提供マニュアルに記載し、対応に心掛けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物奥に花壇・畑があり花を植えたり野菜作りを行っている。道路に面した部分にベンチを置いて天気の良い日は日向ぼっこなどしていただいている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームクレール(ユニット2)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームはデイサービスを併設しており、デイサービスの設備も日常生活支援に活用しております。開設して2年目で地域交流という点ではまだまだこれからですが、同市の他事業所との連携に力を入れ地域としての資源活用が出来るように取り組んでおります。医療的ニーズの高い方でも、家族や医療機関との協力連携をはかり出来る限りの対応がはかれるように取り組みを行っています。